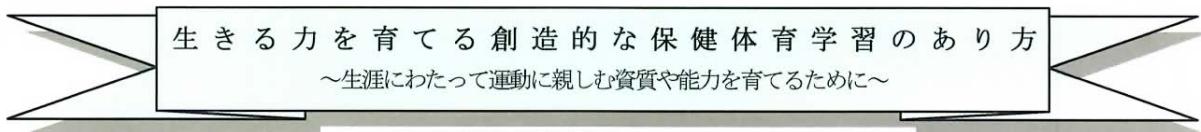


保健体育(中)部会

I. 研究の概要

1. 研究主題



2. 研究内容

- 1 わかる楽しさ、できる楽しさ、お互いに学び合う喜びを実感できる課題解決的学習の工夫
(主体的に学びを引き出すグループ活動の工夫と言語活動の充実)
- 2 教育機器を活用した指導方法の工夫
(効果的な練習方法の開発と指導計画と評価計画の一体化)
- 3 体力向上に向けた実践の交流と検証

3. 主題設定の理由

石教研の基本目標にあるように主体的・創造的で人間性豊かな子どもを育てるには、生きる主体として自らをとらえ、自己の個性を創り出し、豊かな社会の形成者となる資質を身につけさせが必要である。部会では、『体育活動を通して運動の楽しさや喜びを感じ、課題に取り組む子どもたちの育成』を目標に研究を進めてきた。

第24次研究では、器械運動を研究領域とした課題解決型の授業を実践し、映像教材等を含む教育機器を効果的に活用しながら研究主題に近づけるように研究活動を進める。また、新体力テストの結果を受けて石狩管内の状況を分析し、体力向上へ向けた授業計画や授業実践方法を検討していきたいと考えている。

新学習指導要領の教科目標に示された「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てる」を副主題に設定し、研究を充実・発展させていくことが研究主題や部会目標の達成につながると考え、上記主題を設定した。

4. 研究仮説

保健体育学習において、器械運動の特性や魅力がわかること、運動が上手にできることや仲間と一緒に活動することの楽しさや喜びを実感させることは、自ら運動にかかわりを持ち、生き生きと運動に取り組む生徒の育成につながると考えた。さらに、基礎・基本をしっかりと身につけさせることと効果的な練習方法や指導方法を開発・実践する（ＩＣＴの活用等）ことにより、創造的な学習活動が展開され、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てることの素養となると考え、仮設を設定した。

今年度の重点課題

- 1時間の実技授業の中で「思考させ、話し合いの時間」「自己・相互評価反省の時間」、そして「運動量の確保」などのバランスをどのように構成するか
- 単元を見通した指導計画と評価計画のあり方 ○ 教育機器（ＩＣＴなど）の効果的な活用

5. 研究方法

1. 部会情報を発行し、共通理解を図る。
2. 研究中心市町村部会と中心校を定め、授業公開と資料提示を行う。
3. 実践記録集を編集する。
4. 部員相互の資質向上のため、実技・理論研究会を開催する。

II. 実践研究の経過と成果

1. 実践研究の経過

(1) 役員研修会における研究経過

- 4月12日(火) 専門部会第一次研究協議会及び第一回役員研修会、第一回推進委員研修会
5月31日(火) 第二回役員研修会・第二回推進委員研修会
6月28日(火) 第三回役員研修会・第三回推進委員研修会
9月15日(木) 第四回役員研修会・第四回推進委員研修会
10月6日(木) 二次研究協議会プレ授業・石教研専門部会第二次研究協議会事前研修会
10月14日(金) 石教研専門部会第二次研究協議会
11月10日(木) 実技講習会「足育」について

(2) 役員研修会の成果

役員研修会では、理論・実技研修会、二次研究協議会に向けての準備などを行ってきた。

今年度は、「器械運動」についての授業研究のため、役員と各市町村の推進委員との話し合いを中心に研究を進めた。また、石狩管内の生徒の体力向上に向けた取り組みについて検討した。各市町村の推進委員からは、各校の実践についての発表もあり、役員と推進委員が協力し合いながら、保健体育部会の取り組みを発展させようとすることができた。また、第二次研究協議会へ向けての準備も、時間をかけて話し合いをしながら進めることができた。当日も何事もなくスムーズに進行することができた。

2. 専門部会第二次研究協議会での交流

(1) 専門部会第二次研究協議会での交流内容

①授業公開の様子

2年生 単元「器械運動（マット）」

授業者 二口 義美 教諭（北広島市立大曲中学校）

本時の目標

- ・仲間と協力しながら演技（集団）を意欲的に行っている。【態度】
- ・自分の演技する技を演技（集団）の中で、仲間とのタイミングや曲とのタイミングを合わせたりしながら、構成を工夫し、課題を見つけながら演技をする。【思考・判断】

過程	生徒の活動	教師の活動	留意点	
			研究内容との関連	
導入	1 整列、あいさつ	1 欠席者、健康状態等の確認	2 明るい雰囲気のBGMを流し、気持ちを高める。 3 本番のBGMを流し、気持ちを高める。 【態度】 2・3端的に説明し運動時間確保する	
	2 準備運動 ストレッチや補助運動を行う。	2 準備運動を進める		
	3 個人の技を高める（確認） 自分が演技で使用する技を練習する。	3 正しく技を行えているか、指導・助言		
	4 本時の課題の把握	4 本時の課題の提示		
20分	<p>仲間と協力し、集団演技の内容（構成）を工夫したり、タイミングを合わせたりして意欲的に取り組もう！</p> <p>「今日は前回まで練習している技を用いて集団演技の構成を決定します。人（複数人）とのタイミング、曲とのタイミングを合わせることを意識して、スムーズに集団演技を行えるよう取り組んでください。」</p>			
	<p>課題の提示や指示が明確で工夫されていた。</p>			



	5 集団演技を美しく見せるポイントを理解する	5 集団演技を美しく見せるポイントを理解させる	5 特に①②を意識して行わせる。
	① タイミング …複数人の技のタイミングや、人と曲とのタイミングを合わせて演技する。 ② 演技構成 …集団演技構成を工夫し演技が引き立っている。 ③ 正確な技 …演技に取り入れた1つ1つの技がしっかりとできている。(指先、つま先、曲げ伸ばしなど)		
展開 25分	6 集団演技の構成の確認	6 指導・助言	【態度】
	7 集団演技練習 「タイミングが合っているか?」 「演技構成は大丈夫か?」	7 タイミングが合っているか、構成に工夫が見られるか(指導・助言) マット、空手マットを使用し集団演技をする (各班毎時タブレット撮影・確認)	※石教研仮説 1 【態度】・【思考・判断】 互いの教え合い、学び合いにより、積極的に運動に取り組める
終末 5分	8 自己評価ファイルへの記入 9 整列、挨拶	9 けが等の確認	※各クラス2グループに分けてマットと空手マットを交互に使用し合う。 ※1セット目終了後に全体で確認、交流を行う。 タブレットを有効活用していた。 2回目のマット時に、さらに工夫や修正、改善していく。 仲間の演技を真剣に見ていた。

2. 専門部会第二次研究協議会での協議内容

①授業についての質疑応答

ア) 授業者より

集団演技を用いた理由として、チーム、集団の演技をすることで、苦手な子もその中で合わせる努力をし、やってみようという気持ちを前面に出せるのではないかと考えた。タブレットを使用することで、お互いの演技を見ったり、教え合ったりして活発になるのではないかと考え、取り入れた。普段はタブレットで動きを見て、やってみながら(動きながら)修正していたが、今日は形を整えてから曲に合わせていたので運動量が少なくなってしまったのが課題である。空手マットの使用については、通常のマットが6枚しかない現状。次年度も同じ取り組みができるよう、学校にあるもので行いたい。安全面から、空手マットは動きの確認の場所という押さえだったが、生徒は技を行ってしまっていた。



イ) 質疑応答より

- Q. 評価についてどのようにしようと考えているのか?
- 個人の意欲、技能は評価済みである。全員で見て、子ども同士と教師の評価。大きく入れる評価ではない。
- Q. 技のできない子でも生きる授業であるが、その子に対しての最低限の技のしぱりはあったのか?
- 苦手な子にはただ前転するだけでなく、交差するなど少し形を変える。
- Q. 他の種目・単元での話し合い活動はどうやってしているのか?
- サッカーでは点数を取るために効果的な方法を考えさせる話し合い活動を行った。
- Q. 次年度の器械運動のイメージは?
- 表現という意味合いでダンス授業にもつながる。タイミングだけではなく、技の美しさ、大技にも挑戦させたい。

ウ) その他の交流内容（グループ討議の内容も含む）

- 器械運動の目標は「技ができる」「技の出来栄えを高める」「新しい技に挑戦する」。集団演技の中で「合わせる」「そろえる」になると表現、ダンスに近い形になる。器械運動の単元としてやるとしたら、前段である程度の技をやっているので、技のしぱりがあると、器械運動の目標に近づけるのではないか。
- 靴や靴下の扱いについては、開脚前転でマットからはみ出たらケガの可能性があるが、衛生的に脱がせた方が良い。
- 一時間の授業の流れ、「課題の提示」から「まとめ」「評価」「授業の振り返り」が良かった。
- 教育機器（i Pad）について、フォーメーションを確認するためなら、撮る場所についての指導も必要である。また、グループ同士での撮影や助言をすると、全体を見ることができる。
- i Padの無料アプリでスロー再生や逆再生もできるので、活用してはどうか。
- グループ活動、言語活動は大切であるが、場面によっては教師からの教え込みも必要であり、運動量が少なく見えて、ペーパーやホワイトボードでの確認や話し合い活動は重要である。

エ) 助言者より（江別第三中学校 松橋 辰吾教頭より）

「タイミング」という授業のポイントが明確であり、見通しを持ち、振り返りがある授業であり良かった。かっこよく見えるような集団演技を作ろうという課題がアクティブラーニングに繋がっていた。現在の子どもたちは今世の中に存在しない仕事に就く。今ある仕事の半分が自動化され、なくなる。このように急速に変化し、見通しがきかない世の中になる。そんな中でも自分たちが主体的に考えて生きていく、新しく見たことのないものに挑戦していく資質を育てていくことに繋がるのではないか。今回の授業は、アクティブラーニングの姿が垣間見られた授業であった。

課題としては、タイミングを合わせるに声を合わせるという教師の発言ではなく、子どもから発見させる取り組みが必要になってくるのではないか。学校・家庭・地域の連携について、家庭や地域が小さくなってきていく分、学校が大きくしなければならなく、地域人材も活用していくことも必要になるのではないか。



②実践交流での協議内容

各学校の実践交流を行い、球技から器械運動、保健まで幅広く多くのレポートが集まった。どの実践も先生方の工夫を凝らした指導案であり、今後の授業にすぐに活用できるようなものばかりであった。今年度は、グループ討議にしたことでの質疑応答もより活発に行われた。「体力向上」についての実践交流や先生方が抱えている疑問などが解決できるような、より深い実践交流になった。

③第二次研究協議会での成果

二口教諭の授業公開することで、自ら生徒が練習を選択するといった研究テーマに近づく課題解決学習の工夫に取り組むことができた。午後からは、恵北中学校の宮澤静佳教諭に器械運動の実技研修を行っていただいた。宮澤教諭が行っている授業の練習内容を実演した。その上で達するためのアドバイスを丁寧にしていただき、参加した先生方の授業のヒントにすることができた。午前の授業公開と午後の実技研修で同じ種目を扱うことでより効果的な実践交流をすることができた。

レポート集を使った各学校の実践交流も行った。少人数によるグループ交流の形をとって実施した。どのグループも全体で行うより活発に意見交流がされ、より充実した時間となった。どの実践も学習効果の高い工夫がされているものであり、有意義な時間となった。また、体力向上の取り組みの交流が良かった。

III. 教育課程の研究

1. 研究の経過

教育課程委員会では、平成33年度から全面実施される新しい学習指導要領におけるアクティブ・ラーニングについて、保健体育科ではどのような考え方で授業を進めていかよいかについての情報収集を中心に活動を行った。また、収集した資料について、石教研専門部会第二次研究協議会にて、資料発表を行った。

2. 研究の成果・課題

第二次研究協議会にて資料発表を行い、今後取り組むべき授業の方向性を示すことができた。また先生への資料提供も行い、共通理解を図ることができた。今後は、アクティブラーニングを用いた授業での効果的な評価をどのようにしていくかについて、研究を深めていきたい。

IV. 理論・実技研修会

1. 実技研修会の趣旨と内容

①器械運動の実技研修会

第二次研究協議会の午後は、恵北中学校の宮澤静佳教諭による器械運動の実技研修を行った。午前中に行った授業を先生方も体験し、補強運動や各技のポイント、明確な指示で器械運動の楽しさを学ぶことができ、今後の授業で活用できることを実感することができた。また、最後には有志で集団演技の動きなどを交流することができた。積極的に汗をかきながら動く先生方の姿が印象的であった。



②理論研修会

昨年度に引き続き、「足育」をテーマに、野崎円氏(株式会社リハ・イノベーション)を講師にお招きした。今年度は、実践編ということで、最初に姿勢の確認を参加者で行った。その後、姿勢を改善するために、段ボールを使ってインソールのパーツを作成した。自分の姿勢で歪んでいる部分に段ボールで作ったパーツを入れることで、改善されることを実感することができた。姿勢の確認とインソールの工夫次第でパフォーマンスの向上に繋がるという内容を実例から詳しく説明していただいた。成長期でもある中学生は、靴の間違った選び方によって足の怪我にも繋がる。可能な限り、私たち指導者が靴の選び方のアドバイスや姿勢をチェックすることも大切であることを学んだ。



2. 理論・実技研修会の成果

実技研修では、先生方が日頃指導に悩んでいる部分を自分達が練習を実際に体験することで、練習をさせる側（授業者）の視点と練習をする側（生徒）の感覚を近づけることが出来た。今後も、公開授業で見た実践を参考にしながら、個々の技術の向上に努めながら、生徒の実態に合わせて工夫していきたい。

理論研修では、「足育」を通して日頃の授業や部活動における安全管理やパフォーマンスの向上に繋げられることが分かった。参加者一人ひとりが今回学んだことを実践し、一人でも多くの人達に伝達していくことで生徒の健やかな成長に繋がっていくことが期待できる。

V. 部会研究の成果と課題

今年度は、「器械運動」の授業において、1点目の「学び合う喜びを実感できる」部分や2点目の「身につけさせたいことを明確にした授業」が意識された授業であった。各チームが「仲間と協力し、集団演技の内容（構成）を工夫したり、タイミングを合わせたりして意欲定に取り組もう」という目標の達成を目指し、前時の授業の反省からチームでの話し合いで課題を確認し、自分達に合った練習を選択するという主体的な学びを引き出す工夫がされていた。また、仲間との話し合いを通じて、声を掛け合いながらタイミングを合わせることに気が付いていくという流れで構成されており、お互いに学び合う喜びを実感できるような工夫がされた授業を展開していただいた。今後、器械運動を行う上できっかけとなる授業になったと考える。

今後は、1時間の実技授業の中で「思考させ、話し合う時間」「自己・相互評価反省の時間」、そして「運動量の確保」などのバランスをどのように構成するか。さらに、ICTをどう活用するかなど、単元を見通した指導計画と評価計画のありかた等にも実践研究が必要である。

次に、石狩管内の体力向上の実践交流により、石狩管内、各市町村で取り組みの現状を把握することが出来た。各校のレポート交流や日頃の実践交流により、どの学校も現状を踏まえた体力向上の取り組みがされているという確認が出来た。今後は、各校、各市町村、石狩管内全体で更に工夫された実践が展開していくことが期待できる。

第24次研究の1年目の成果や課題を生かし、2年目も引き続き研究内容を深められるような部会員の力を借りながら研修を重ねていきたい。

最後に、今年度の研究中心市町村である北広島市教育研究協議会、授業をしていただいた二口義美教諭、助言をいただきました松橋教頭に敬意を表すと共に、次年度の研究がさらに充実・発展し、会員の諸氏が日常実践に励まれることを期待し、まとめとする。

(文責 竹治 義規)